

# 2015年2月4日(水曜日)の読売新聞に ベトナム進出について紹介されました。

2015年(平成27年)2月4日(水曜日)

読

賣

新

聞



パン製造販売業「パン・アキモト」(那須塩原市)が、ベトナム第3の都市ダナンに進出することが3日、正式に決まった。現地企業との合弁企業の設立が同国政府から認可された。ベトナム人従業員が製造販売する。6月の開店まで従業員の技術研修を本社で行い、製パン業で起業を目指す青年を実習生として本社で雇用、経済面からも支援する。中小のパン製造販売業者の海外進出は珍しい。

## アキモト パン製造 ベトナムで 現地企業と合弁 6月1号店



ベトナムに進出する工場兼店舗について打ち合わせをする秋元社長(中央)ら。ベトナム1号店が入居するビル(パン・アキモト提供)

合弁企業は資本金500万円。パン・アキモトのほか、8年前に現地に進出した電子部品メーカー「アイ電子工業」(大田原市)、それに現地企業が出資する。ビルの1階に約135平方メートルの工場兼店舗「パン・アキモト」1号店をオープンする。従業員は全員ベトナム人で、3人が那須塩原市の本社工場で技術研修を受ける。開店後は本社の日本人スタッフが約5か月間、製造のほか客への「おもてなし」精神を指導する。

### 武者300人 練り歩く

足利市の伝統行事「**鎧年越**」が3日開かれ、甲冑姿の市民らによる武者行列が市内を練り歩いた＝写真＝。

武者にふんじた約300人は午後7時、ほら貝の合図とともに同市通の織姫公民館前を出発。鎧阿寺までの1.3キロを1時間かけて行進した。多くの市民が沿道から写真をとったり、「かっこいい」と歓声をあげたり。同市の自営業岩脇恵美子さん(61)は「孫が成長したら参加させたい」と話していた。



進出のきっかけは、アイ電子工業の高橋温社長(45)から、「ベトナムでおいしいパンが食べられないか」と相談されたこと。同国ではフランスパンは普及しているが菓子パンは少なく、

小麦粉の品質もあまり良くないという。パン・アキモトの秋元義彦社長(61)は、小麦粉を厳選して高品質のパンを作れば、売られている菓子パンの倍の値段でも売れると判断した。また、合弁企業が認可されたことで、ベトナムから実習生の雇用が可能になった。毎年数人を受け入れ、本社工場です3年間製造技術を習得してもらう。賃金はパン店を開くための資金に充ててもらおう狙いもある。すでに20代の男性3人が内

定している。日本メーカーと現地企業で安価な製パン機を共同開発することでも起業を支援する。秋元社長は「アジアの青年に日本の技術と食文化を伝えたいというのが、先代の創業者の夢だった。1号店をモデルに、ベトナム国内や周辺国にも広めたい」と意気込む。パン・アキモトは1947年創業で従業員約60人。2014年9月期の売上高は6億3000万円。長期保存できる「パンの年話」メーカーとして知られる。